

編集後記

■今月の巻頭インタビュー「扉を開く」では、「江戸しぐさ」について、大変興味深いお話を伺いました。そして、このような奥深い教えが、文字のかたちで残されなかったという点に驚きました。確かに、所作とかしつけとかについては、本で読んで「頭でわかる」よりも、実際にやってみるにより、「身体で覚える」方が身につくやすいことでしょう。「三つ子の魂百まで」と言いますが、身体の中からにじみ出すような「粋で美しいしぐさ」は、小さいころから始めてこそ、無理のないかたちで身につけることができるのかもしれない。（河野）

■多くの映画や映像作品の撮影現場となっている尾道。千光寺山頂から石畳の坂道を下る途中に見えた尾道水道の水面がキラキラ光りまぶしかったこと。そのロケーションのすばらしさや光の美しさは、日本国内ではそう多くはありません。映画の町として知られている尾道には全国から多くの人々が訪れますが、地方の荒廃はこの町にも及び寄っていました。住民の高齢化や狭く急な坂道の不便さから居住が敬遠され、中心部の空洞化が進んでいたのです。そんな状況下、映画館再建や古民家再生に貢献したいと立ち上がった、志ある若者への支援の気持ちで、多額の市民募金を生み出しました。映画の町・観光の町、尾道の魅力を「再生」するため、市民が一体となり尾道の町を活性化させようと頑張っている姿に心を打たれました。（MK）

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2009年 冬号
編集・発行人 河野圭志
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
© 日本銀行情報サービス局 禁無断転載

※本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

「にちぎん体験二〇〇九
歴史・散歩」開催

▼日本銀行本店では、十一月一日（日）、二日（月）、四日（水）から六日（金）に、「にちぎん体験二〇〇九歴史・散歩」を開催し、たくさんの方々にご参加いただきました。

「企画展―日銀の建物とお金の歴史―」では、日本銀行の建物やお金の歴史をテーマとした展示や、本店本館旧地下金庫の開閉シーンをご覧いただくとともに、重さを実感できる一億円（模擬券）のパックや小判・大判のレプリカを体験いただくことで、日本銀行の歴

史等をより身近に知っていただけたかと思います。

また、十一月一日（日）に特別企画として開催しました「市民講座」では、日本銀行の歴史、お金の歴史、日本銀行の建物の歴史をテーマに、ご説明いたしました。



本店内で開催された市民講座

同時に、国の重要文化財に指定されている本店本館の見学ツアーを行い、その歴史や日本銀行の業務内容についてご案内させていただきました。

「金融教育フェスティバル」開催中

▼金融広報中央委員会では、「金融教育フェスティバル」を夏場にスタートさせ、予定していた全国一〇地区のうち、すでに六地区で開催してまいりました。いずれの会場においても多数のご参加をいただきました。

参加した保護者の方々には、「子

どもにお金の大切さを学ばせるのに良い機会だった」「金融教育は大事だと改めて認識した」など、金融教育に対する理解を深めていただきました。また、子どもたちからは、「お小遣い帳の付け方がわかった。無駄遣いを減らしたいと思った」などの感想が聞かれ、お金のことについて楽しく学んでいただけたのではないかと思います。

このイベントは、引き続き四地区（注）で開催が予定されています。詳しくは、金融教育フェスティバル公式サイト <http://www.festival2009.jp/> をご覧ください。

（注）愛知（十二月二十六日、埼玉（一月九日）、長崎（二月十六日）、広島（二月六日）